

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872300419
法人名	有限会社 豊地質
事業所名	グリーンホームゆたかの郷
所在地	兵庫県三木市宿原1263-86
自己評価作成日	令和3年11月02日
評価結果市町村受理日	令和3年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 【特に力を入れている点】
- ・換気の徹底による建物内部の臭い、感染症予防
- ・利用者の保清(着衣・整容・皮膚の状態・体臭・口臭など)
- 【アピールしたい点】
- ・職員の勤続年数が長い
- ・二階ベランダからの見晴らしが良いこと
- ・庭には四季折々の花が咲いていること

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和3年11月20日

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・事業所内は整理整頓されている。特に自室やトイレなど、居心地の良さを感じる。・利用者各部屋から特にベランダからの見晴らしがとても素晴らしい。お庭は手入れされ四季折々の花を見ることが出来る。職員の働きやすさをとても大事にした事業所の考え方や取り組み。

【工夫点】・食への取り組み。例えば①湯飲みに箸・茶碗すべて個人専用のものを使っている。②畑で採れたネギや菊菜を一品添えておられる等。・利用者一人一人の状態に合わせてペットの配置を変え、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグリーンホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけたい (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己評価	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が安心して、自分らしく暮らせる場所となるために、他事業所と比べ、同じ職員が関わられる時間が多いという特性を生かしたケアを日々実践している	「ゆつたりと、自然にその人らしく」の事業所理念を玄関に掲示し、管理者は夜勤専任し、勤務年数の長い職員は日勤と勤務特性を活かしたケアを共有し、事業所理念の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、直接対面での交流は中止している	コロナ禍により、本来事業所と地域のつきあいで区長、民生委員、ボランティアとの直接対面交流は中止しているが、ボランティアには紙芝居セットを貸出し他の場所での活用には協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為ボランティアの方々の受け入れを中止しているが文書で発信している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域住民、地域包括支援センターの方々の意見を参考に、職員全員で話し合い実践に活かしている	持回りの家族代表、区長、民生委員、地域包括、ボランティアに所定の報告を送り、意見を受理し、職員全員で話し合い実践に活かしている。		事故件数は、ヒアリング件数は月に特にヒアリングは、発見時点で即メモに発生要因等記し、職員全員で話し合い実践に活かす方法が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問な点や不可解な点など、常に市の担当者にも相談を行っている	6月に空部屋に入居希望者が入所時、業者への食事手配が間に合わず、対応に苦労した件等市の担当者にこのような場合の相談等も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の適正化のための指針を定め、運営推進会議において身体拘束適正化委員会を開催している	身体的拘束等の適正化のための指針を定め、年2回身体的拘束の排除の為に取組に関する研修を実施している。玄関施設は、近くの公園で痴漢問題があった為、現在は日中施設をやむなく実施している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を実施しており、日々のカンファレンス等でも啓蒙を行っている	虐待防止の研修を年回計画的に実施しており日々のカンファレンスで言葉の使い方や職員の気づき等話し合い防止に努めている。		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は社内外の研修を通じて制度を学び、必要な場合はケアカンファレンス等協議している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関し、昨年利用者の一人息子が亡くなり成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要有無等ケアカンファレンス等で協議している。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず利用者、家族に対し十分に説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等利用者、家族に十分に説明を行い理解・納得を図り、通院関係の懸念の問い合わせ等家族の関心事にも説明をしている。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは常に、コミュニケーションを図り、家族等とは、花便りや手紙、電話等で密に連絡をとり、意見を運営に反映するようにしている。	入居者とは常に、コミュニケーションを図り、家族等とは、管理者の写真撮影特性を活用し、花便りや手紙、電話等で密に連絡をとり、施設生活の見える化等を行っている。		
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所に代表宅が隣接しており、管理者が常駐し職員と意見交換を行いやすい環境になっており、意見交換の中で良い案があったら速やかに実践するよう努めている	事業所隣が代表宅であり、管理者が常駐し職員との意見交換がしやすい環境と毎朝夜勤者との申し送りや体温測定等意見交換し申し送りノートに記載をし、同月2名の米寿祝いも別々に実施等職員案を反映している。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の状態を把握できている。家庭の事情に合わせて休暇を与えるなど職場環境の向上に努めている。社会保険労務士や市に相談している			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に沿って社内研修を行い、必要に応じてOJTやオンラインでのトレーニングを行っている			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症防止の為、相互訪問等は中止しているが、オンラインでの勉強会等の活動を通じて、サービスの質の向上に努めている			

自己第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	家族等周囲の支援者だけでなく必ず本人から直接困りごとや不安を探るよう努めている			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に出来る限りの時間をとって、家族との面会を重ね、情報収集を行いながら、ホームの生活等を説明し、信頼関係づくりをし、入居後は頻繁に電話連絡をして安心していただけるよう努めている。月1回管理者が手紙をしたため家族に近況を発信している			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービスも利用も含めた対応に努めている	自立支援を念頭にサービス導入前にアセスメントを経て本人、家族のセルフケアを優先し、インフォマーシャルサービスの導入も積極的に行っている			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃やリニア作りなどの作業を行うときは、必ず職員が入居者と一緒に行う、食事は同席するなど関係性の向上に努めている。また、一人ひとりのアルパムを作り、職員と共に過ごしていることで共有できるようにしている			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えたいく関係を築いている	電話や家族意見書で家族の意見を取り入れるように努め、本人と家族の絆を大切にしながら、支えていける関係を築いている			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症防止の為直接対面はご遠慮いただいているが、電話やオンライン面会などで本人、家族の意向を踏まえ望まれた場合快く応じている。不定期ではあるが本人の馴染みの場所にお連れして関係継続を支援している	地域に暮らす馴染みの知人との関係性を継続できるようコロナ禍で出かけていくことはできないができるだけ接点かもてる支援を考えている。日々の暮らしを動画に撮り送ったり、電話や手紙での連絡を取り持つなど、つながりを大切にしたい取り組みを行っている。		

自己 第3者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支 援に努めている	職員が入居者同士の関係をよく観察して食 堂やリビングの席順を考慮し、孤立せずに入 居者全員が家族のように過ごせるよう支 援している			
22	○関係を断ち切らない取組み	電話や手紙など関係性を大切にしている。 退所後に無くなられた方への心配りも行っ ている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人の希望や意向を全職員が言葉だけで なく非言語コミュニケーションでも把握す るよう努めている。困難な場合は本人の目 頃の様子を慎重に観察し本人本位で検討 を行っている	その人らしく暮らし続ける支援に向けて、一人 ひとりの思いや希望、意向の把握に努めてい る。本人の言葉や言葉にしづらい思いを、 日々の行動や表情から汲み取り、把握するよ うにしている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前に必ず支援者から情報提供を求め 入居後は本人との会話や家族の面会のと きの思い出話を傾聴し、新たな情報が得ら れたら記録、職員間で共有するなどこれま での暮らしの把握に努めている			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	職員全員で、さまざまな情報でも共有して把 握に努めている			
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	本人、家族の意向を尊重し、医療従事者、 職員全員で話し合ってから介護計画を作成 している。計画作成担当者が本人、家族に 対し説明を行っている。課題に対し細やか にモニタリングを行っている	日ごろのかかわりの中で本人がよりよく暮ら すための課題について職員と意見交換を行 い、介護計画につなげている。朝の申し送り 後にモニタリングやカンファレンスを行い、職 員の意見や、気づきを反映し現状に即した介 護計画を作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などや気づきを個別の介護日 誌に随時記録し情報共有に努めている。毎 朝ミーティングを行いケアの実践や計画の 見直しに活かしている			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに 対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支 援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自立支援の理念に基づき、ニーズに対し介 護ありきではなくセルフケア、インフォーム ルサービスを検討するなど柔軟な支援、 サービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や他の事業所と情報交換し、地域資源の把握に努めている。また、本人の豊かな暮らしにつながる地域資源があれば、利用できるかを検討している				
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族が選ばれたかかりつけ医と事業所が協力して、本人に快適な生活を提供できるよう支援している。専門医の外来受診が必要な時にはかかりつけ医と連携し外来の付き添いや同行している	適切な医療を受けられるよう事業所協力医の往診は毎月行われている。また、専門医への受診時では、家族が不可能な場合は事業所職員で代行している。普段の様子や変化を伝えるようにしている。歯科往診では適切な義歯装着のため1日4名の診察を受けている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が気付いたことや変化を訪問看護師に伝え適切な看護を受けられるよう支援している				
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際安心して治療できるように又できるだけ早期に退院できるように病院関係者に情報提供をし、入院後は定期的な面会に行き情報交換、相談を行っている。また管理者が定期的な訪問し病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージをできるだけ防ぐように、本人への支援方法に関する情報を病院に提供している。入院中は見舞うようにして回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。			
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の方針について本人、家族と話し合いの場を設け主治医との話し合いにも積極的に関与している。本人、家族の意向を尊重し事業所としてできる事、対応を丁寧に説明し同意を得るよう努めている。職員や協力機関と方針を共有しチームとしての支援づくりに努めている	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の対応し得るケアなど早い段階から家族の意向を確認し話し合っている。協力医や訪問看護師等と連携を図り事業所としてできること、できないことを家族に十分説明して随時意思確認をしながら安心して納得した最期を迎えられるよう看取り支援を行っている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員5名が応急手当普及員の資格を取得しており、急変時、緊急時対応マニュアルを整備している。また、AEDを設置している				
35	(17)	○火災や地震 水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所に代表宅が隣接しており、管理者が常駐し職員と意見交換を行いやすい環境になっており、意見交換の中で良い案があったら速やかに実践するよう努めている	事業所立地が土砂災害危険個所であり、事業所開設7年前から地区長と代表が市等と折衝し、県による対策が実施されており、災害対策は出来ている。年2回避難訓練を近隣と連携し実施している。備蓄は隣の代表者宅倉庫に準備し、備品リストも作成されている。			

自己 第三者	項目	自己評価	実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況			
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプログライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプログライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で利用者の話をする時はインシヤルで話し排泄介助の際、他の利用者にも悟られないように席を離れてから声かけをするなどプログライバシーを尊重した対応を心がけている	利用者の情報収集など職員間で共有する場合はプログライバシーを損ねないようにインシヤル等で伝える。人前であからさまに介護をしたり、誘導の声掛けで本人を傷つけていないか目立たずさりげない対応に配慮している。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり自己決定できるようにその方の言動を否定的に捉えないように心がけている			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	清掃等の作業を行う時参加に消極的な場合は、無理に参加を促さず本人が自発的に参加してくるまで見守りをする等、一人ひとりのペースを大切にしたい支援に努めている			
39	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	緊急時を考え機能性を優先しつつその人らしい身だしなみやおしやれを大切にしよう職員は入居者全員の調和が保たれるよう気配りしている			
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、食材について説明を行い、入居者と職員が共同でお茶入れ、台拭き、お箸配り、配膳などの出来ることを役割分担して、食事を行っている	食欲を高めたり、食事への関心を引き起こすために個別に湯呑み、茶碗、箸を決めている。冷食だが畑で採れた根木、菊菜を添え物みそ汁に取り入れます。職員も一緒に食卓を囲み同じものを楽しく食べたいです。毎日摂る手作りスモモゼリーは健康の源になっています。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の観察から得た情報、体重、主治医に相談したことなどを考慮して、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた、食事内容、水分摂取量を提供している			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている			
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、失禁する前に、トイレ誘導する等、排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう支援しているまた、入居され始めのとき、表示板を使用してトイレの場所を覚えていただくようにしている	一人ひとりの排泄状況を丁寧にチェックし、自尊心に配慮し利用者の様子から敏感に察知し身体機能に応じて手を差し伸べたり、ウオシュレットの介助をしている。日中はトイレでの排泄を大切にしている。トイレはとても清潔にされ使いやすいたイレの整備に努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	実践状況	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便の状況を観察し、主治医と連携して便秘の予防に取り組んでいる		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は出来る限り本人の意思を尊重している	午後から週2回入浴している。入浴を拒む方には言葉かけ、対応を工夫し一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている。入浴への負担感等を軽減できるよう足浴で温める。ゆっくり無理強いせず安心感を持ってもらえるよう職員で話し合い工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠していただくように、日中リーナス作りや生活リズムをしていただくようにしている 休憩は、入居者のその日の状態、気候などを考慮して適宜していただくようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者には服薬時、説明をし、各自の服薬表を、ファイルして、職員がいつでも確認できる場所に保管しているまた、薬の変更があり状態の変化がみられる場合は、主治医に相談し、バイタルチェックをこまめに行うなどしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リズムを行うときは、できることできるなことを把握して、一人ひとりができることを役割分担しているまた、日頃の観察から、入居者の状態に合った、楽しみごとを提供できるように支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症防止の為外出は控えている	感染防止のため戸外への外出は行われていない。ベランダや物干し場は見晴らしもよい。毎日30分は外気に触れ、スワットをしたり身体を動かす時間を増やしている。周辺風景メジロの巣を見学したり、現状に応じ移動への配慮をして日々の暮らしの中で活かしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカにに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域のイベントに参加した際はたこ焼きなどの好みの物を買って頂くよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者全員が、直接ご家族と話せるよう電話をしている		

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、入居者が不快や混乱をまねかないように備品の配置を考慮し、また、気分転換に外気浴ができるようにベランダを活用し、夏場は、すだれで快適に利用できるようにするなど季節を感じられる工夫をして、居心地よく過ごせるようにしている	1階に6室、2階に3室、共用空間は玄関のある2階に居間、台所、食堂等となっており、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激等ないように配慮し、生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと食堂にそれぞれ、ソファやイスがある。なので、1人ひとりが思い思いに過ごせるようになっている。また、仲の良い入居者同士がくつろげるように居室にテーブルとイスを設置している		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	所持品を持ちこまれている方は少ないのですが、観葉植物を置いたり、リースの壁飾りをする、窓から野菜、果物の成長を楽しめるようにするなど、居心地よく過ごせるような工夫をし、一人一人の状態に合わせてベッドの配置を換えたり必要に応じて介護ベッドを利用して頂いている	居室や泊の部屋は、所持品を持ち込まれる方は少なく、観葉植物やリースの壁飾りを作成する利用者の作品を各部屋に飾るなど又、全ての部屋から野菜、果物の成長を楽しめる工夫しており、利用者一人一人の状態に合わせてベッドの配置を変え、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や家具の配置など、安全な動線の確保を心がけ、なるべく見守りで自立歩行をしていただいている。他にも、トイレに大きな標識をして、トイレの場所を覚えていただくようにしている		